

# 鏡川流域パートナーシップだより No.262 R8.1.21



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

## 「著者来たる！第8回「川から始める地方再生」サミット@高知・鏡川」を開催しました



1月20日(火)に、【著者来たる！第8回「川から始める地方再生」サミット@高知・鏡川】と題し、「川から始める地方再生」の著者・水谷要さん(東京都在住)をお招きし、鏡川流域関係人口が集うイベントを開催しました！

現地会場の「はりまやアンサンプル(高知市はりまや町)」には、鏡川流域関係人口講座3期生の藤澤佑介さんなど、8名が集まりました！また、現地会場での対談の様子をZoomで中継し、日頃からオンライン交流会で対話をしている「ぼっち」ユーザー「だっぶる」さん(神奈川県在住)と、鏡川流域関係人口講座2期生の川田玄一さん(東京都在住)にご参加いただきました。

水谷さんが代表を務める「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」は、リバーブランディング(川を起点に地域の稼ぐ力と地域プロモーションを創造すること)を通じて、地方再生の取組を進めています。水谷さんの取組の記録や地方再生についての検討などを、著書「川から始める地方再生」に記しています。



「ぼっち」を通じてコメントが多数届きました！



- 地元の方々が、鏡川の「清掃」や「香り」など、次々にテーマを作り、常に関心を持つようにしていることがすごいと思います
- 鏡川にどのように関わられるのか、どうすれば地方再生の起爆剤になるのか、興味があります

### 「鏡川ロマン」の不思議



水谷さんから、鏡ダムに生息する陸封アユの珍しさについて紹介いただきました。また、日常的に自然との関わりを作る方法として、魚釣りや竹竿作りを提案いただき、参加者で意見を出し合いながらイメージを膨らませました。

参加者のうち3名は土佐塾高校の先生でした。自然の中での教育や、学びと遊びの境界線などについて、それぞれの視点から意見を共有！完璧な教育プログラムではなく、生徒が主体性を発揮するための余白を残しておくことが重要とのこと。



「魚を釣ることを目的にせず、『そこにあるもの』でみんなで楽しむことに注力する」「『釣り教室』になると面白くない。参加したいと思った人が『やってみよう』と思える雰囲気作りが大事。そのために、まずは自分たちが楽しむこと」「フリースタイル(自分流)で鏡川にどぶる時間を作りたい」など、今回も白熱した意見交換でした！神奈川県在住の「だっぶる」さんから、「大人が何人も集まって、こんなに熱く語っている鏡川や釣りに興味がある。自分も体験してみたい」とコメントをいただきました！



前回のサミットで出合ったアイデアを元に、イベントを企画しました！鏡川流域に位置する土佐塾高校付近の里山で、植物採集とアロマウォーター作りを行います。

このように、関係人口同士の意見交換を通じて、新たな取組が次々に生まれています！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっち」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっち」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android